

# ナムトゥン2ダム現地訪問報告 (2010年11月20日～27日)

メコン・ウォッチ

2010年12月



Mekong Watch

## 目次

1. はじめに .....	1
2. 現地訪問報告 .....	1
2.1. ナカイ高原の移転村 .....	1
2.1.1. 生計回復プログラムの行き詰まり .....	1
1) 農業 .....	2
2) 林業 .....	3
3) 漁業 .....	3
4) 畜産 .....	4
5) 小規模ビジネス .....	5
6) まとめ .....	5
2.1.2. 水田と果樹の損失への補償 .....	5
2.1.3. 村落基金の失敗 .....	6
2.1.4. 象と村人のトラブルの可能性 .....	7
2.2. セバンファイ川沿いの影響村 .....	7
3. 結論 .....	9

## 1. はじめに

2010年11月、メコン・ウォッチはナムトゥン2ダム事業の影響を受けている移転村6と、セバンファイ川下流の3村を訪問し、影響住民および関係者計35名にインタビューを行った(訪問日程、対象村、インタビュー対象者は添付資料1・2を参照)。

メコン・ウォッチは2010年5月に現地調査を行い、かねてより問題提起していた長期的な生計回復の失敗に加え、①水田・果樹・家畜への補償の未払い、②灌漑農地整備の遅れ、③貯水池漁業の持続的な管理、④皮膚病の発症、⑤セバンファイ川の河岸農業への補償の遅れ——などを世銀・ADB・日本政府に指摘した。今回の出張においては、これらの諸点のうち、③以外については、何らかの対応がなされており、進捗がみられたが、移転村では補償の遅れにより、水田や果樹などの村人の資産が確認不可能になっており、多くの村人が不満を抱えており、対応の遅れによる悪影響が深刻化している事例が見られた。生計回復プログラムのどれ一つをとっても、長期的な移転住民の生計回復にはつながっていない。また、セバンファイ川下流では、村落生計回復基金を用いた活動に失敗したことによって、村人の一部が借金を負うといった事例が見られた。

## 2. 現地訪問報告

### 2.1. ナカイ高原の移転村

#### 2.1.1. 生計回復プログラムの行き詰まり

ナカイ高原の移転村の生計回復は、農業、林業、漁業、畜産、小規模ビジネスという 5 つのプログラムによって達成が目指されている。しかし、5 つのプログラムのどれを取っても、長期的な移転住民の生計回復につながる見通しはついていない。以下、5 つのプログラムについて、今回の調査で明らかになった現状を報告する。

## 1) 農業

### 灌漑整備はほぼ完了、一方で多くの移転住民が補償農地を放棄

今回訪問した移転村では、補償農地の灌漑整備は 2010 年 10 月頃までに完了していた。当初、2008 年までに「(移転住民に対し)1 世帯あたり 0.66 ヘクタールの整地・灌漑された土地」を支給し、「そのうち少なくとも 0.16 ヘクタールは稲作に使用できるように開発されている」ようにしなければならぬ(コンセッション契約 パート 2 セクション 2:77 ページ)とされていたことから、計画より 2 年も灌漑整備が遅れたことになる。この間、土壌の質の悪さと、換金作物のマーケットがないことから、多くの移転住民が農地を放棄してしまっている。Sop Hia 村では、「39 世帯の移転世帯のうち 22 世帯は米を植えているが、残りの世帯は農地を使っていない」という。Nakai 村 Tai 地区(khum)では、「移転世帯 197 世帯のうち、補償農地で農業を行っているのは約 70 世帯」という。同村の男性(30 代)は、多くの世帯が農地を放棄している理由について、「土地が悪く農業に適さないため」と語った。Phone Sa Oon 村や Nakai 村 Nuea 地区でも、同様に、補償農地の大部分が放棄されている。

また、Done 村では、192 世帯中約 40 世帯の農地には設計上、灌漑が届いていない。

今回の訪問は、米の収穫を終えたばかりの時期ということもあり、灌漑を利用した補償農地での作物栽培を始めている世帯はまだ見られなかった。今後、乾季の作物栽培の状況や灌漑が届かない世帯への NTPC の対応を注視する必要がある。

### 補償農地での収量の激減

一方、補償農地で米作りを続けている移転住民からは、米の収量低下を嘆く声が聞かれた。Sop Hia 村では、「2008 年には平均で世帯辺り 30~40 袋あった収穫が、2009 年には 20 袋ほど、2010 年には 6~15 袋の収穫しか得られていない」という。狭い補償農地で休閑期間が取れずに、陸稲栽培を続けているため、土壌劣化が起きていると見られる。



補償農地の状況

### パイロット村の農業プログラムの失敗

Nong Bua Sathit 村においては、2004 年から 2008 年までパイロット事業として農業プログラムが推進されたが、村長によれば、現在、野菜を販売用に栽培している世帯はわずか 2~4 世帯と

のことであった。主要な理由は、生産しても売れないこと。当初は、ブロッコリー、サラダ菜、キャベツなどを植えていたが、道路がよくなったことにより、外部から大量に安い野菜が入ってきた。これによって移転村で栽培された野菜は売れなくなった。野菜づくりのための灌漑用水も、ポンプアップするための電気代の補助がなくなれば、「使わなくなるのではないか」とのことであった。



事業によって建てられたマーケット用の建物は、一度しか利用されていないという。

### 不確かな貯水池の縁(drawdown area)の可能性

貯水池の縁の土地の分配が行われているが、11月現在、まだ水に浸かっている、農地や放牧地としての利用は不可能な状況である。Done村の男性(30代)は、「1ヶ月ほどしか使えないのではないかと。何を植えればいいのか分からない」と語った。貯水池の縁の利用の可能性は、まだ不確実な状況である。

## 2) 林業

### VFAの配当金分配をめぐる混乱

Village Forest Associationは、毎年、政府から6,000 m<sup>3</sup>のCommunity Forestからの伐採許可を受け、伐採・製材を行い、その利益を配当金として移転住民に分配している。2009年には世帯あたり、1,000,000 キープの配当があった。2010年には、分配方法を変更し、世帯ではなく、個人あたり270,000 キープを配当した。しかし、「もらえるはずの145人が配当を受け取れなかった」(Done村)など、配当の対象をめぐる混乱が生じている。

### 香港企業へのVFAの運営譲渡

VFAの製材所の職員によれば、現在VFAはNTPCの資金で運営されているが、2010年12月で終了し、香港企業に譲渡される。これまで、VFAは世帯あたり1,000,000 キープほどの配当を供与する程度の利益しか上げられていないなか、私企業が利益を確保したうえで、住民の利益がどうやって達成されるのか、今後の経緯を注視する必要がある。

## 3) 漁業

ダム貯水池では、貯水後から多くの住民が漁に従事している。しかし、2009年と2010年を比較すると、漁獲高は半分近くに減少していると感じている住民が多かった。これは、住民が村の近くで漁を行わず、船のガソリン代をかけて5-10kmも移動し、漁をしていることから伺える。ガソリン代は1リットル約11,000キープであり、ナカイ村の住民は漁獲高がガソリン代にも満たないと証言している。商業的価値のある魚種は5種ほどと限られている。NTPCによってセラピアなど複数の魚種が放流されている模様だが、現地名 *Pa Park* という種類以外は、養殖用の外来種である。*Pa Park* は住民が捕獲する魚種に含まれていない。これらの魚種の放流の生態系への悪影響が懸念され、その効果も疑問である。また、貯水池の複数の場所で、水の腐敗によって魚が大量死している現象が、住民によって報告されている。貯水池の酸素不足など水質悪化が深刻化している懸念がある。



貯水池の魚



貯水池で漁をする子供



樹木が除去されていない貯水池の状況



#### 4) 畜産

##### 不明確な補償基準

家畜の損失に対する補償が実施されている。Phone Sa Oon 村の男性(60代)は、「世帯あたり2頭までの補償を受けられることになっている」というが、移転後に水牛が飼料不足から死亡したのにも関わらず補償を受け取っていない世帯、3頭分以上の補償を受け取った世帯がいるなど、補償の基準が住民に対して明らかに説明されていない。

##### 農業プログラムとの競合

Sop Hia 村では、7 世帯が 70～80 頭の水牛を飼っているというが、補償農地で放牧することから、隣の農地の米や作物を食べてしまうというトラブルが生じている。同村の男性は、「牛や水牛が入ってこなければ、キャベツ、キュウリ、トマト、インゲンなどの野菜を植えるのだが」と話し、限られた補償土地で実施されていることで、農業プログラムと畜産プログラムの競合が生じている状況が見られた。

## 5) 小規模ビジネス

### 自立の道筋が立たない織物プロジェクト

Thakhek の町で仕入れた品物を自宅の商店で売るなどして、小さなビジネスに成功している世帯はいるが、そうしたビジネスを開始できるのは、家畜を売却した資金で元手を作れたなど、一部の村人に限られている。NTPC が支援している織物プロジェクトでは、依然として、NTPC がビエンチャンから材料の綿花を買い付けて村人に手数料なしで卸し、会社が買い取るなど、自立的な運営の道筋は立っていない。



織物プロジェクトに参加しているのは 2 村にとどまる。Sop Hia 村では、49 世帯中、織物プロジェクトに参加しているのは 7 世帯とのこと。材料は、NTPC が買い付けてきており、製品を NTPC が買い取っている状況。

## 6) まとめ

このように、5 つの生計回復プログラムが長期的な生計回復につながっていない状況で、移転がもたらした生活の激変に適応できた住民とできていない住民の差が顕在化してきている。多くの住民が、移転によって水田や焼畑地を失い米を自給することができなくなった。これらの住民は、移転以前は米が足りないときは、家畜の売却や非木材林産物 (NTFPs) 採取による収入で賄っていたが、事業によりこのほとんどが失われてしまっている。このため、多くの移転住民は、不安定な貯水池漁業と違法伐採に依存せざるをえない現状がある。少なからぬ数の住民が National Protected Area (NPA) および周辺地域でのローズウッド等の禁伐樹種の違法伐採に従事せざるをえないのは、このためであると考えられる。

### 2.1.2. 水田と果樹の損失への補償

遅れていたナカイ高原の移転住民に対する水田および果樹の補償が 2010 年 10 月頃からよう

やく実施されつつある。水田および果樹の補償については、「移転のために必要な措置が実施されるまでは、(移転住民の資産への)アクセスの移動や制限が行われない」ようにしなければならず、「とりわけ、土地や関連する資産の接収は、補償が支払われたあとでなければ行ってはならない」(OP4.12 パラグラフ 10)としている世銀の非自発的住民移転に関するセーフガード政策に違反し、移転が完了した 2008 年 4 月から 2 年以上が過ぎても着手されていなかった。

### **不適切な資産調査**

水田・果樹の補償のための資産調査は 1998 年に実施された。Sop Hia 村では、98 年後資産調査の修正は行われず、その後移転する 2005 年までの 7 年間に増えた農地や果樹は補償の対象とされていない。また、調査のやり方について、「測量調査ではなく、聞き取り調査しか行われなかった」「両親が外出中で、家にいた子どもが正しい加減な回答をしたために、資産が少なく見積もられた世帯もあった」(Sop Hia 村の男性、40 代)、「灌漑田は雨季に水がついてしまうところがあった。調査者によってそこをカウントした人としなかった人がいる」「蓋を開けてみたら、不公平で、不満が出ている」(Phonesaon 村、男性、30 代)という問題が指摘されている。また、住民の多くは、1998 年当時は、この資産調査が何のための調査か、それがどういう意味を持つのか理解していなかったという。資産調査のやり方、時期が適切だったとは言い難い。

### **遅れた補償と確認できない水田・果樹の異議申し立て**

このように、資産調査が不適切だったことから、補償の対象や算出方法に不満を抱えている住民がいる。Done 村は、11 世帯がまだ補償を受け取っておらず、うち 3 世帯は金額の確認が終わっていない。Phone Sa Oon 村 Sop Oon 地区では、移転対象の 135 世帯中、20 世帯が補償額に合意していない。「バナナ、パイナップル、サツマイモ、サトウキビの畑を持っていたが、果樹以外はカウントしてもらえなかった。しかし、立ち木以外の果物の畑も補償の対象になっている」(Sop Hia 村、40 代男性)、「天水田の補償は受け取ったが、灌漑田はカウントされていなかった。これから郡に対して異議を申し立てる」(Nakai 村 Neua 地区、50 代男性)、「1998 年当時、調査者 3 名が村に来て、違う基準で住民の財産を記載した。雨季に水がつく土地で乾季に作っていた水田が、補償対象としてカウントしてもらえなかった人がいた」(Nakai 村 Tai 地区、30 代男性)など、補償の対象や算出方法に不公平感を持つ村人がいる。しかし、本来は移転前に行われるべき補償が、貯水後 2 年経っても行われなかったことで、今後村人が異議申し立てを行ったとしても、資産調査のやり直しなどの確認作業を行うことは極めて困難であることが予想される。

#### **2.1.3. 村落基金の失敗**

Nong Bua Sathit 村では、それぞれの世帯がお金を出し合い、貯蓄組合をつくり、NTPC と村長とで管理していた。ここから借金をして、1600 万 Kp のトラクターを購入したり、鶏やブタの家畜プロジェクトを行ったりしたが、いずれも失敗し、借金が返済できない状況となった。貯蓄組合は、2007 年頃につくられたが、2010 年には消滅した。

一方、ナカイ村では、女性同盟および愛国戦線による貯蓄組合があるが、いずれも問題なく運営されており、配当金が出されている。

#### 2.1.4. 象と村人のトラブルの可能性

ナカイ郡の地方行政官によれば、最近、野生の象が村のかなり近くまで来ているという。森に入った子どもがすぐ近くで象の鳴き声を聞いたという報告もある。「ダム建設前は、象は大きな群れで行動していたが、貯水後、生息地が限られ、4～5頭の小さなグループで行動しているため、統率が取れなくなっているのではないかと行政官は語った。象が村の近くまで来るようになったことで、今後、村人との間にトラブルが起きる可能性がある。

#### 2.2. セバンファイ川沿いの影響村

セバンファイ川沿いの影響村では、2010年5月の現地訪問で観察された皮膚病被害は収束していた。しかし、皮膚病の原因が公開されていないなかで、今後、乾季に入り、水量が減少すると、再び影響が出る可能性もある。セバンファイ川では、今年、多くの住民が洪水による水田への被害を受けている。一方で、ダムの放水による漁業被害が顕在化し始めており、米不足を補うセーフティネットが失われつつある。そうしたなかで、NTPCによる Village Restoration Fund によって開始した事業に失敗し、生計を回復するどころか、かえって借金を負って困窮化する世帯が始めている。

#### 顕在化し始めた漁業への影響

以下に挙げる住民のインタビューからは、2009年12月の試運転開始後、セバンファイ川の漁業への影響が顕在化し始めていることが分かった。

「ダムの放水によって水位が上がると魚は網や延縄にかからない。ダムができる前は、毎日50kg程度買い付けていたが、(ダム建設後は)買い付け量は20-30kg程度。2009年からダムの影響が出始めている」(Pha Nang村で魚の仲買をする40代女性)

「米が足りなくなると、魚を捕るかタケノコを採りに行って現金に換える。セバンファイ川で漁業をしているが、今年あまり魚が取れない」(Mahaxai村40代女性)

「(ダムの影響によって)川の流れが変わってしまったため、以前刺し網漁をしていた淵でしかけられなくなった」(Thabo村の60代男性)

#### Village Restoration Fund によって困窮化する影響住民

セバンファイ川下流では、補償プログラムとして、1世帯2,000,000キープの Village Restoration Fund が用意されている。Pha Nang村では、40世帯が資金を借り、牛や水牛の飼育や織物などの事業を行っている。家畜の飼育に成功し、資金を増やしている世帯がいる一方で、購入した家畜が死亡するなどして利益をえられない世帯が出てきている。返済期限を迎えた世帯の約半数が返済できていないという。Mahaxai村 Neua 地区で、2,000,000キープを借りて、養



魚池を作った女性(40代)は、下記のように語っている。

「NTPC に勧められて養魚池を作ったが、魚が大きくなり、全く売れなかった。どうやって魚を買うのか、餌をやればいいのか、分からなかった。技術的な指導も受けていない。池の掘削や稚魚の購入は、NTPC から企業に発注されたので、自分たちは何にいくらかかったのか把握していない。毎月請求があるが、借金および利子を返済する目処は全く立っていない」

この女性の世帯では、従来は生産した米が自給用にたりない場合は、それを補うために漁で得られた魚を売って現金収入を得ていたが、今年は漁業もできない状況にある。

### **河岸の野菜畑の補償**

河岸の野菜畑の補償は、本来、事業開始前に実施されるべきであったが、2010年5月の訪問時には、まだ補償を受け取っていない村が見られた。今回の訪問では、補償はほぼ完了していたが、問題も見られた。「補償の対象となったのは、2007-2009年の3年間で農業をしていた土地のみと説明され、村全体では、(河岸に畑を持っていた)33-34世帯が補償からもれた」(Tabo村)など、ここでも調査の不備をうかがわせる指摘があった。また、Pha Nang村では、NTPCが、農業が可能なラインを示すために設置したポールが、雨季の増水で流されていた。このラインより上部の畑は、もし洪水被害を受けたら補償を得られることになっているが、目印がなくなっているなかで、適切な補償が実施されるか疑問がある。実際に、同村では10月に植えつけたトウモロコシが、増水によって流され、村は郡に訴えを出しているが、返事は受け取っていないという。



河岸の野菜畑。目印のポールはほとんど流されているとのことだが、この場所は残っていた。

### 3. 結論

#### ① ナカイ高原の移転住民の生計回復プログラムの改善

ナカイ高原では、依然として長期的な生計回復の道筋が立っていない。一部の成功住民のみをハイライトして生計回復計画の成功のようにみせることは誤りである。世銀・ADB は、生計回復プログラムがなぜ成功していないのかについての調査と要因分析を行い、プログラムの改善を図るべきである。

#### ② 移転住民に対する水田・果樹の補償遅延の原因解明と住民の異議申し立てへの対応

世界銀行の非自発的住民移転に関するセーフガード政策に違反し、移転が行われる前に補償の支払いが実施されなかった原因を解明するべきである。現在、補償への不満を訴えている住民の異議申し立てに適切に対応すべきである。

さらに 1998 年時点で行われた資産調査の手法・内容および、その後、資産調査を実施せずに当該調査を採用した理由について説明すべきである。

#### ③ セバンファイ川の生計回復プログラムの改善と村落生計回復基金による借金の救済

セバンファイ川の漁業被害等の社会影響について、調査し、その要因を分析すべきである。また、その結果に基づき、補償等の適切な手段を講ずるべきである。さらに、これまで、十分な技術指導を受けないまま、生計回復基金を用いた活動によって借金を背負っている影響住民に対する救済策が実施されるべきである。

#### ④ モニタリング報告書の迅速な情報公開

これまで、NGO が①Living Standard Measurement Survey、②Evaluation of the Savings and Credit Scheme in the Downstream Area、③Food Consumption Monitoring Program、④プロジェクトに関する水質調査(貯水池およびセバンファイ川)、漁獲高の推移(貯水池およびセバンファイ川)、河川浸食、影響住民の栄養状況、社会経済変化などのモニタリングデータ、⑤Independent Monitoring Agency のモニタリングレポートの公開を求めてきたが、これらの情報は未だに公開されていない。事業の環境・社会影響を明らかにするために、早急に情報公開を行うべきである。

以上

#### 添付資料 1: 日程

- 11月21日 Village Forest Association の製材所、Done 村、Phon Sa Oon 村訪問  
22日 Thalang 村、Sop Hia 村、Nong Bua Sathit 村、Nakai 村訪問  
23日 Pha Nang 村、Mahaxai 村訪問  
27日 Thabo 村訪問

調査者: 東智美、木口由香、満田夏花 / メコン・ウォッチ

#### 添付資料 2: インタビュー対象者数

Khammouane 県 Nakai 郡

- ・ Village Forest Association 製材所 - 2 名
- ・ Done 村 - 2 名
- ・ Phon Sa Oon 村 - 3 名
- ・ Thalang 村 - 5 名
- ・ Sop Hia 村 - 3 名
- ・ Nong Bua Sathit 村 - 3 名
- ・ Nakai 村: Nakai Neua 地区 - 2 名、Nakai Tai 地区 - 1 名

Khammouane 県 Mahaxai 郡

- ・ Pha Nang 村 - 4 名
- ・ Mahaxai 村: Mahaxai Tai 地区 - 4 名、Mahaxai Neua 地区 - 4 名

Savannakhet 県 Xaybuly 郡

- ・ Thabo 村 - 2 名

#### 添付資料 3: ビデオインタビューでの一問一答

##### ■A 村: 村長インタビュー

##### ○畑の前で撮影

Q) 家畜や野菜プロジェクトのうち、どれが生計をたてることにつながっていますか？

A) NT2 のプロジェクトでは、さまざまな機関が支援してくれました。郡の農業普及部と、前は NT2 の専門家もいましたが、契約が終わったから、彼らはいなくなりました。今は農業普及部しか残っていない。

Q)まだプロジェクトを続けていますか？

A)続けています。肥料はもらえています。でも村人は先が見えないといっています。損を出している。生計が成り立たない。

Q)(収入が)足りないという意味ですね？

<うなづく>

Q)鶏や豚の飼育はどうして失敗したのですか？

A)死んだから。ワクチンを打っても死んでしまった。そして、損を出した。飼っていた人は損を出した。プロジェクトが提供した資金も、損を出して、返せないような状態ですよ。資金を出した人に。

Q)今まで、野菜は売れたのですか？

A)売れました。年間 100 万キープの人もいた。最低でも。いろいろ植えましたから。ブロッコリーとか、トウモロコシとか。

Q)どこで売りましたか？

A)ウドムスック村(注:ナカイ高原村落の中心地)で。道がよくなったので商人が買いに来た。商人が来なければ村人が担いで売りに行った。

Q)市場はなぜなくなったのですか？

A)まだありますよ。

Q)いえ、(野菜を)作らなくなった理由というのは？

A)以前は、たくさん作っていたので、売りきれなかった。ほかの村からもきましたから。道がよくなりましたからね。今のように、他から車で野菜が運ばれてきて、売られるようになったから。

Q)でも、なぜ今は(仲買人は)こないの？

A)ヨマラート郡やパクセー、パクサンからたくさん野菜が入ってくるから。

Q)ああ、それがウドムスックに来るとのこと。

A)そう。

Q)だから、市場が一杯になった？

A)そうです。ウドムスックの車がでていって、安い野菜を仕入れてくる。そこに少し上乗せして売る。

キュウリやスイカを買いに行った(自分の話か仲買人のことかは不明)。

Q)もし、たくさんの人が野菜を作り始めたら、市場はあるの？

A)さあ、それはわからないね。上の人は、探すといっているけど。市場を。前はバナナもよく売れたけれど。

#### ○村の市場前(建物があるが、誰も使用していない)

Q)あそこの市場は使っています？

A)どうやって！なにも売るものがないのに(笑い)。ふつうなら、村人が野菜などを持ってきて売るのに。売るほどないから。

Q)たくさんあるの？誰もかわないの？どちら？

A)誰も買いにこない。それに、量もないよ。開場式は盛大だったのにねえ。誰も買いにこない。NT2のU先生が指導してくれたのにね。

Q)この市場はいつ作りました？

A)2008年。

Q)貯水池の汚染状況は？

A)ない。以前は村の横は、この村だけの貯水池だった。ダムができてダム貯水池とつながった。そのの上に見える白いのが上部貯水池で、そこまで水をポンプアップして畑に配っている。

Q)企業が(ポンプアップの)電気代を持ってくれなくなったら、どうします？

A)(野菜作りは)だめになると思っています。今だって生活に苦勞しているのに。ほぼ確実だな。2011年には、野菜プロジェクトは終わるだろうな。電気代が負担できなくて。

#### ■野菜作りをしていた女性

Q)野菜の種はプロジェクトから？

A)以前はね。今はもうない。

Q)このまま作り続けます？割に合います？

A)わからない、肥料もないし。(聞き取れない)

郡のスタッフ)肥料の支給もなくなったから、無施肥で作るとのことだよ。

Q)指導はない？

A)自然にできる範囲で作るだけ。

Q)水は足りています？

A)足りている。

A)何人かで一緒に土地を使っている。柵がないとできないから。牛や水牛が(野菜畑に)入ってきてしまうから。

Q)この場所は、試験場だった？

A)ええ。

Q)土地は誰のもの？

A)水田は自分ものだけれど、この土地は試験場。

Q)0.66haの(補償)農地では米を作っている？

A)長く何もやっていない。3,4年前から。昔はやっていただけ。

Q)なぜ？

A)大変だから。労働力がないから。夫が兵隊にでているから。

Q)畑は遠い？

A)遠いよ。

Q)どうしているのですか？

A)食べるものがない。野菜も作る場所もないし。米が足りない。

Q)昔の村では米は足りていた？

A)昔も足りていなかった。もう耕す土地はないし。

Q)どうしていたの？

A)どうしようもないよ。

Q)昔は水牛や牛がいた？

A)いたね。今はいないけれど。

Q)ここにつれてきましたか？

A)ダムの水がきたからね。死んでしまった。

Q)何頭いた？

A)6-7 頭いた。

Q)全部死んでしまったの？

A)まだ 3 頭いる。4 頭死んだ。

#### ■B 村副村長のインタビュー

Q) 昨年の貯水池漁業の状況は？

A) 最初、たくさんの魚がとれました。水に驚いたのですかね。刺し網や延縄でたくさんとれました。でも、貯水が終わってからは(魚は)どこに消えてしまったのか。

Q) 昨年と比べてどの程度減ったのですか？

A) 最初の年と比べて 2 分の 1 から 3 分の 1 に減った感じです。

Q) 初年度はどのくらい稼ぎました？

A) 多かったですよ。1,000 万キープに届いたかな。

Q) 今年は何？

A) 今年も、風が強くてあまり漁にでられないのと、魚が漁具にかかりにくいです。

Q) (収入は)いくらになりますか？

A) 約 30-40 万キープくらいでしょう。

Q) 昨年は 1,000 万、今年は 6 月から半年で 30 万程度、ということですね。

A) ええ。

Q) 今年、水の汚濁は？魚が死んだりしましたか？

A) 魚も死にました。

Q) 何月のことです？

A) 水があふれて(貯水時のことを指している)、腐って臭いを出して、死にましたよ。

Q) 何月です？

A) 今でも死んでいますよ。支流のあたりでね。このあたりだけはいいけれど。向こうの支流のあたりでは、水が腐って臭いを発し、そういうところで魚が死んでいる。

Q) B 村の村人はどこまで漁に行きますか？ 遠くまで行きますか？

A) 行きます。

Q) 何キロ？

A) 5,6km くらいですね。

Q) 船でどれくらい移動しますか？

A) 30 分。1 時間かかることもある。

Q) ガソリンはどのくらい使いますか？

A) タンクいっぱい、往復できる。

Q) タンクいっぱい、何リットル？

A) 6 リットル。

Q) 6 リットルかけて、どの程度魚がとれますか？

A) 日によって違うのではっきりしたことは言えませんが、最初の年はとれた。1 日 50—60 万になった人もいます。

Q) 今年は少ない日は？

A) 少ないと一日 5,6kg のときもある。ガソリン代にもならない。遠くまでいくのに。

Q) 補償地では？

A) 米作りです。

Q) ほかに？

A) 米だけです。今年、灌漑施設はきたけれど、どんなプロジェクトを持ってきてくれるのか知りません。



Q)(灌漑は)全体に届きました？

A) はい。

Q) 権利は委譲されました？

A) 畑の？

Q) いいえ、灌漑の。

A) まだです。

Q) 今年、補償地を耕しているのは何世帯？

A) 約 70 世帯。

Q) 全体で？

A) 権利がある人は 197 世帯です。

Q) 他の人は耕作していないのですね。

A) ええ。漁業をしています。

Q) なぜ、その人たちは耕さないのですか？

A) 土地が悪くて、耕しても食べられないからですよ。

以上

\*通貨 1ドル=約 8,000 キープ